

## 「絶対的基礎力」を身に付けよ！

1・2年生のみなさん、いよいよ最後の定期考査、どうでしたかあ!? 本来なら、考査前に限らず、普段(不断)の努力の積み重ねが大切なわけですが、なかなかそうもいかないみなさんも、ここぞとばかりがんばったことでしょう。でも、その場しのぎの学習では受験期に通用しないことはわかってますよね。

3年生は自宅学習期間に入っていますが、入試対策のための講座や個別指導に登校しています。がんばってますよ～。1・2年生のみなさんも、来年再来年と、全国区で堂々と教科試験勝負するのであれば、毎日の予習・授業・復習の黄金サイクルで実をつけてください。

例年、共通テストが終わると、3年生から「もっと早く意識すれば良かった」という反省が数多く出されます。二次逆転や逃げ切りを狙うためには、各教科の力が相当必要なわけですが、その前に基礎学力である共通テストレベルで点を取る力がなければ、次はありません。さらに、小論文や総合問題といった二次試験に必要なのは、入学直後からの主体性や当事者意識の高さ。学校の教科にないこれらの対策を考えると、高校入試のように「試験間近になって集中すればなんとかなる」ものではないことを認識してください。

「会津高校に入れば大学にいける」程度の考えをいまだに持ち続けているみなさんはいない(?)と思いますが、ここであえて確認しておきます。全国の進学校どこに行っても、黙って第一志望に合格できる学校などないのです。

**普段(不断)の努力で絶対的基礎力を！**

「絶対、〇〇に入ってやる！」的なモチベーションが、まずは大事かもね…。

### 【共通テスト全国平均点】(第1日程中間集計・得点調整前)

～ 昨年センター試験比 数学・生物・倫理で大幅易化 ～

国語 117.5 数学ⅠA 57.7 数学ⅡB 59.9 英語(R) 58.8 英語(L) 56.2  
 現社 52.0 倫理 72.0 政経 49.9 倫政 69.3 世史B 63.5 日史B 64.3 地理B 60.1  
 物基 37.6 化基 24.7 生基 29.2 地基 33.5 物理 57.8 化学 51.1 生物 72.7

【5教科総合得点率6割(540点)以上の会高生度数推移】

2021年(101)6クラス 20年(98)7クラス 19年(117)7クラス 18年(109)7クラス 17年(126)7クラス

### 3年生 おもな出願先と合格・進路決定状況

【国公立大出願数 ～前期/中期 or 後期/計～】

東北 7/0/7 北海道 2/3/5 大阪 2 東京工 2 筑波 2/1/3 京都 1 九州 1/1/2 福島 20/14/34 会津 19 山形 12/9/21  
 米沢栄養 2/3/5 岩手 1/1/2 岩手県立 1/3/4 秋田 2/4/6 秋田県立 1/2/3 宮城 1/1/2 宮城教育 1/1/2  
 新潟 27/16/43 新潟県立 0/6/6 上越教育 2/6/8 茨城 4/4/8 千葉 1/1/2 東京学芸 4/2/6 群馬 1/3/4  
 高崎経済 0/5/5 都留文 0/5/5 など 今年度国公立計 153/110/263 参考:私大昨年度一般受験計781

【学校推薦・総合選抜等合格確定数(2/18現在)】

福島 2 県医 1 県医看 1 県医保 1 会津 1 山形 1 岩手 1 東京学芸 1 高崎経済 1 信州 1

国公立大計 11 私立大計 28 会津短 1 看護専門 1 その他専門等 2 計43

～ こういった数字から、先輩たちの出願や進路決定について、その傾向を探ってみよう。～

今年は共通テストの5教科総合平均点は予想に反して昨年並。文系は昨年と同じ得点分布。理系で最上位層が減少し中上位層が増加。難関校は私大も含めて軒並み競争率ダウン。コロナ禍も相まって、全体として受験生の動向は非常に読みにくい。福島県周辺の国公立はおしなべて低倍率なのに県内の大学は人気が高い。本校の出願が新潟・福島に集中するのは当然。また、一般入試以前の進路決定者は、例年並みである。⇒ 結果は新年度の「学而の決意」参照。

## 知っておこう！「受験の現実」etc.

今、みなさんのなかには、大都市圏の大学を中心に、上位レベルの志望校を先生に伝えている人も多いと思われます。しかし、実際の受験となると、そういった第一志望が思った以上に難しいことに気づかされます。先輩の出願状況を見れば、関東圏が少ないのが一目瞭然です。

— 関東圏の国公立大学は、人口の集中する首都圏の私立併願生も数多く出願する。そして、関東を取り巻く周辺地域の受験生も食い込もうとする。受験生の合否は、こういったライバルとの激戦りの中で、いかにして二次の個別試験を突破するかにかかっている。そのために、みんな必死で、今、この瞬間に打ち込んでいる。国公立大学の出願先を決定する場合、どこに人気が集まるか、レベルが上がるかは共通テストの出来にも左右される。共通テスト高得点の場合、一般的には強気の出願傾向になるが、難しくて点が伸びなかった場合は堅い出願になる。そして、受験生は、さまざまなデータの中で右往左往する。年によって、ある大学や学部が高倍率になったり低倍率になったり、大きく変動する。

— 今や私立大学も激戦りだ。国の施策によって東京都内の難関大が定員を減らしてさらに難化し、他の中堅大学も含めて地方の学生にとっては不利になっている。高いレベルを求めることに主体的な意義を持たないと、競争には勝てない。

## 知っておこう！「絶対的基礎力が大切」だけど・・・

— だからこそ、大切なのは、データに左右されない強い意志とそれを裏付ける確実な学力だ。しかし現実には、学年が上がると、模試の結果を受け取るたびに、強気の志望だけでは合格の可能性が低いことに気づく。重要なのは、大学(進路)を選択する上で「どこで何を学ぶことが将来のプラスになるのか」「将来のプラスになることとは何か」「自分の将来像とは何か」「今の自分のできる選択とは何か」の答えを準備しておくことだ。

## 自分を知る！考える！調べる！相談する！準備する！

「私は工学系だからできるだけお金のかからない国公立に行きたい。でも、遠くはイヤ。」

「将来は公務員。地元の大学を出たほうが絶対有利。ゆずれない。」

「薬剤師はいいたい。薬学部を出て国家試験に合格することしか考えていない。」

「英語を生かした仕事に就きたい。外国語学部か国際学部でないとダメ。」

「ウチはお金がないから・・・家族が〇〇しか認めてくれないから・・・」

— 短大や専門学校から4年制大学へ編入する先輩もいる。第一志望が成就できなくても、世の中で立派に生きている先輩のほうが多い。志望先の学校の特色は？ロケーションは？学費や生活費のシミュレーションは？奨学金やアルバイトの活用は？—

受験期に入ってから焦ることのないように、今から本当に、自分を知って、考えて、調べて、相談して、答えを準備することができるか、大人の思考で前に進んで欲しい。

押しつけがましい答えを出すのはやめておく。たった一度の人生はみんな自身のもの。一人一人が、それぞれ責任をもって主体的な生き方をしてくれることを願ってやまない。